

令和2年9月議会定例会一般質問

廣瀬 英二 議員

【質問事項】

1 きくよう健康倶楽部について

菊陽町において、高齢者数も平成2年の国勢調査以来、年々増加し、また平成28年からの将来予測においても年々増え続け、令和7年には約10,700人とされ、5人に一人以上が高齢者になるとされている。そういう現状及び将来予測の中で、人生100年時代と言われる今日、住み慣れた地域社会の中で、家族、近隣の人々等との社会関係を保ち、家族及びまちの一員として健康で末永く、普通の暮らしができるために、平成30年に始まった「菊陽健康倶楽部」は健康寿命延伸対策として定着しつつある。会員は令和2年6月末で2,127人となっている。健康づくりを後押しするために、血圧等の数値を管理することにより、目標が設定でき健康増進につながる。また、併せて宣伝活動も含め、ポイント、交換商品等を充実拡大していく必要がある。

（質問要旨）

- (1) 体組成計で測定した数値を記録する健康手帳を作成し会員に配布する考えはあるか。

『回答』

きくよう健康倶楽部事業は、会員登録されますとタニタの活動量計を携帯し活動していただきます。この活動量計は、1日の歩数のほか、総消費カロリー、歩行時間等のデータを確認することができます。これらのデータは、活動量計自体に30日分が蓄積されますが、それ以上は、古いデータから自動的に消去されますので、定期的に専用のデータ送信機（リーダーライター、ローソンのLoppi）により送信していただく必要があります。送信されたデータは、各個人ごとに作成されたタニタ健康管理サイト「からだカルテ」に蓄積され、各項目がグラフ化され、経時的な変化をインターネットで

閲覧できる仕組みとなっています。また、町内4か所に設置している専用の血圧計、体組成計で測定したデータについても「からだカルテ」で閲覧できます。このようにご自身の健康づくりの取り組みを「見える化」することで、体の変化を確認し、継続した健康づくりへ活用していただくようご案内しているところです。

ご質問の「健康手帳を作成し、会員に配布する考えはあるのか」については、「からだカルテ」システムを利用できない会員に向けた対応になると思います。きくよう健康倶楽部では、インターネット環境をご利用されない会員の方でも、月1回開催している体組成計による無料測定会に参加いただければ、測定結果を印刷してお渡しできます。また、毎月開催している測定会に参加いただければ「クラブきくよう」スタッフが、測定結果を元に一人ひとりに合った運動方法などのアドバイスも行っております。このように「からだカルテ」システムを利用できない会員にも自身の健康を管理するデータを提供できると考えておりますが、現在のシステム機能を活かすためにも無料測定会の周知を実施してまいります。

(2) 新規会員紹介ポイント、体質改善レベルアップポイント新設の考えはあるか。

『回答』

「きくよう健康倶楽部」の会員数は、平成30年1月の事業開始から3年目を迎え、初年度（平成31年3月末）会員数1,428人、2年目（令和2年3月末）2,031人、3年目（本年7月末）2,158人と順調に会員数を伸ばしております。この事業の目的は、町民の健康意識の向上及び意識的な活動の促進を図り、会員の健康寿命の延伸を目指すものです。そのため、会員の健康づくりを後押しするための健康ポイント事業として、事業開始当初から今年度まで、初年度登録料3,000円、毎年の登録更新料2,000円を免除しております。

議員ご質問の「新規会員紹介ポイント」につきましては、導入している自治体の内容を確認しますと、登録料、更新料を会員から徴収し、ポイントを付与する原資を確保した上で実施されていると思われれます。現在、「きくよう健康倶楽部事業」では、登録料、更新料を全額免除することで会員の増加を図っております。

また「レベルアップポイント」につきましては、本町がすでにポイントを付与している月1回の「無料測定会」への参加者を増やし、会員が「からだカルテ」を活用した健康づくりに取り組めるよう周知に努めてまいります。

(3) 交換商品として、地元特産品等の新設は町の産業振興につながると思うが、新設の考えはあるか。

『回答』

「きくよう健康倶楽部」のポイント交換事業は、事業開始当初、この事業の拠点となる「さんふれあ」の500円商品券と交換できる内容でスタートしました。その後、会員からのアンケートの結果を元に、令和2年度から「ゆめタウン商品券」「クオカード」「健康メニュー提供店で使用できる食事券」の3メニューを追加拡充しております。

ご質問の「地元特産品等の新設」については、野菜の詰め合わせセット等を各価格に応じたセット内容の対応が可能であることを確認しております。

今後は、会員へのアンケート等の結果を踏まえ検討してまいります。

【質問事項】

2 移動販売について

第3期菊陽町福祉計画及び第5期地域福祉活動計画の中に「地域の福祉活動・福祉サービス」の調査結果が掲載されている。アンケート結果から見える傾向として「食料品や生活用品等を配達してもらえる」が中部小学校区で71.4%と高い割合になっており、お買い物に対しての不便さが如実に表れている。また、南小学校区においては、令和2年6月末で住民数1,752人に対し、75歳以上の高齢者が349人で高齢化率は19.9%であり、全体の校区の中で高い比率となっている。その中でも井口地区においては、住民数374人に対し75歳以上が109人で高齢化率は29.14%と町内一番の高齢者地区となっている。高齢化による自主的な免許証返納や近くにお店が無い等からお買い物難民とされている。私も実情を把握するため、幾度となくお話を伺ったが何とかしなくてはとの思いで、日々対策を考えてきた。その対策として移動販売にたどりついた。社協、生協等、種々検討したが、実績のあるローソン熊本菊陽バイパス店が現実的であり、複数回お話しをさせていただいたが、営業基本方針として

地域密着の展開を目指している。移動販売については前向きな姿勢であり、また、町からの助成は考えていない意向であった。一議員として、ローソン熊本菊陽バイパス店の方針に共鳴し、地域共生社会の実現に向けて、微力ながら尽力していきたい。

(質問要旨)

- (1) お買い物難民とされる中部小学校区及び南小学校区の一部地区の現状を、どのように捉えているのか。

『回答』

菊陽町全体では75歳以上の後期高齢者の割合が令和2年3月末で9.42%ですが、ご質問の中部小校区や南小校区には20%を超える地区も見受けられます。

なお、井口地区については、高齢者福祉施設が2か所設置されていることもあり、近隣と比べて、高齢化率が高くなっております。

これらの高齢者の中には、自分で車を運転して外出できないため、民間のタクシーや町が運行している乗り合いタクシーを利用したり、家族や知人の車で一緒に買い物をされている方がおられます。しかし、これらの移動手段も利用できず、買い物に困っている方もいらっしゃいます。そういった方の中には、社会福祉協議会が行う、「菊陽キャロットサービス」の一つである「買い物支援サービス」などを利用されている方もおられます。

- (2) ローソン熊本菊陽バイパス店の基本方針である「地域・町と一緒にあった取り組み」については、町としても聞かれていると思うが、地域共生社会の実現に向けての第一歩として、町はどのように取り組むのか。

『回答』

ローソンが下津久礼で毎月1回、武蔵ヶ丘5町内で毎週火曜日に実施している移動販売は、町が社会福祉協議会に委託して実施している「生活支援体制整備事業」の中で、生活支援コーディネーターが区長及び自治会長などから地域の支援ニーズを聞き取り、対象の事業者を探した上で、連絡や調整などを行い実現したものです。

今後も、高齢者のニーズを把握した上で、必要とされる地区については、地元の実情に配慮した上で、実現可能であれば、地区と事業者を繋いで行きたいと考えております。